

内臓動脈瘤破裂に伴う腹腔内出血により 出血性ショックを来した一例

ほう じょう のぶ まさ¹⁾ ひら き たつ や¹⁾ おち あい りょう や²⁾
北 條 宣 政¹⁾ 平 木 達 也¹⁾ 落 合 諒 也²⁾
よし だ こう たろう²⁾ みや じま のぶ え¹⁾ や の ゆう すけ³⁾
吉 田 弘 太郎²⁾ 宮 島 伸 枝¹⁾ 矢 野 悠 介³⁾
おお くに のり こ¹⁾ まつ だ はな こ¹⁾
大 國 典 子¹⁾ 松 田 花 子¹⁾

キーワード：腹腔内出血，内臓動脈瘤，分節性動脈中膜融解，
線維筋性異形成症，ループスアンチコアグラント

要 旨

症例は60歳代，女性。7年前から誘因なく腹直筋血腫を2度発症し，APTT延長及びループスアンチコアグラント陽性を指摘されていた。インフルエンザA型の発症2日後に体動困難と意識低下を来し当院へ救急搬送された。来院時，ショック状態で心窩部痛の自覚症状があり，単純CTで腹腔内出血を認め，造影CTで内臓動脈瘤が多発し内臓動脈瘤破裂による出血性ショックと診断した。赤血球及び新鮮凍結血漿の輸血及びトラネキサム酸の投与を行い，状態が安定した後に動脈塞栓術を施行し経過は良好であった。

CT画像から内臓動脈瘤の原因として分節性動脈中膜融解あるいは線維筋性異形成症を疑った。分節性動脈中膜融解及び線維筋性異形成症は非炎症性，非動脈硬化性に動脈瘤を来す疾患であり，病理組織診断で診断を確定する。本症例ではループスアンチコアグラント陽性であり，動脈瘤発生の関与を疑ったが，関連する報告は少なく今後の報告に期待したい。

はじめに

分節性動脈中膜融解 (segmental arterial mediolysis : SAM, 以下SAMと略す。)及び線維筋性異形成症 (fibromuscular dysplasia : FMD, 以下FMDと略す。)は多発性動脈瘤を生じ，前者は内臓動脈瘤破裂による腹腔内出血を来し，後者は動脈瘤破裂や狭窄による虚血症状が出

Nobumasa HOJO et al.

1) 独立行政法人国立病院機構浜田医療センター総合診療科

2) 独立行政法人国立病院機構浜田医療センター放射線科

3) 独立行政法人国立病院機構浜田医療センター

内分泌・代謝内科

連絡先：〒697-8511 島根県浜田市浅井町777番地12

独立行政法人国立病院機構浜田医療センター

総合診療科